

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 濱元聡子	提出日：平成 24 年 2 月 3 日
東南アジア研究所における職名： * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手・Oポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)： インドネシア共和国・ガジヤマダ大学農業工学部・アディ・ジョコ・グリトノ * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学・研究機関・企業・その他)	
派遣先の研究機関等での職名：なし	
派遣期間： 平成 23 年 10 月 22 日 ~ 平成 23 年 12 月 30 日 (派遣日数： 61 日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可) ①研究・実験 ○②フィールドワーク ○③セミナー ④インターンシップ ⑤サマースクール等の講習 ⑥学会出席 ⑦単位取得等 ○⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。) ①人文学 ②社会科学 ③数物系科学 ④化学 ⑤工学 ⑥生物学 ⑦農学 ⑧医歯薬学 ⑨総合領域 ○⑩複合新領域	
派遣の概要(500~700字程度) <p>本研究は、2004年12月のスマトラ沖地震津波発生以降顕著になった、大学等高等教育機関の学部生による必修学外社会奉仕活動(KKN:Kuliah Kerja Nyata)の分析をとおして、インドネシアの大学教育における自然災害被災地における社会的・経済的復興支援活動の取り組みを明らかにし、非常時における大学の役割について考察することを目的とする。ガジヤマダ大学は国連大学の「持続可能な開発教育の10年(ESD)」プログラムにおける拠点校に認定されている。この活動の内容と2006年以降に発生したインドネシアの自然災害の復興支援に関連するKKNの動向を分析することで、大学の社会貢献について日本との比較研究をおこなうことを目指す。</p>	
事業に係る研究成果(500~700字程度) <p>今回の出張期間中は、前回の調査で得た必須学生奉仕活動(KKN)がおこなわれた村落を訪問し、活動によってどのような変化が生じたのかあるいは生じなかったのかについて、村落の住民とKKNに参加した学生の双方に聞き取り調査をおこなった。その結果、わかったことは次の3点である。1) 災害復興支援活動のうち、経済支援に特化してたてられた計画は、理想的に過ぎるものがおおく、限られた期間と資金では安定した結果を導き出すには至らないものが多かった、2) シェルター(一時的避難所)で生活する被災者にとっては、持続可能な経済活動として受け入れるほどの実効性がともなわないものが多かった、3) 販路の確保や安定した生産に至るまでの活動を一貫してコーディネートする役割が必要であることがわかった。KKNと被災地の間に、たとえばNGOが関わったり、規定の活動期間が終了してからも何らかの形で学生が持続的に集落と関わるような体制を整えたりといった中長期的な視点からの安定した関わりかたが必要であるということがわかった。</p>	